

講演会報告

心豊かに暮らしていくために

浅野 公介 (東京14期)

2023年6月11日に石田秀輝先生による貴重な講演会を受講させて頂きました。石田先生は、鹿児島県沖永良部島にお住まいであるため、当初はZOOMのみによる講演の開催が予定されていました。しかし当時台風が接近しており、もともと東京にいらっしゃる予定だったのを早められたそうで、ちょうど講演会の日には東京に居られたのが幸いし、わざわざ富坂キリスト教センターまで足を運んでくださり、私を含めた会場での受講者は直接目の前で講義を受けることができました。

今回の講義では、地球の抱える環境問題をテーマの中心に据え置きながら、それらを如何にクリアさせ、地球と人類がどちらも豊かに暮らしていくためにはどうしていくべきなのかというヒントを複数提示して頂いています。

みなさんは「地球環境問題とは何か?」と問われ、どう答えるでしょうか。私は浅はかながら地球温暖化を想像しました。しかしながら石田先生曰く、地球環境問題にとって「気候変動」は一部でしかなく、「マイクロプラスチックの海洋流出」、「資源やエネルギー、淡水の枯渇」、「窒素とリンの増加」、「化学物質による汚染」、「生物多様性の損失」等の多くの問題を抱えており、要するに「人間活動の肥大化」が根本的な原因なのだと断言しています。

みなさんは、毎年どれだけの生物が絶滅しているか知っているでしょうか。恐竜がいた時代; 2億年ほど前は、1000年に1種類の生物が絶滅していたと考えられており、200~300年前では4年で1種、100年前には1年で1種のペースになり、1975年には1年で1000種、今では1年に4万種類が絶滅していると言われています。もちろん、今の計測方法は



昔よりも正確であると思いますし、昔ももしかしたらもっと絶滅している種があったかも知れませんが。

それにしても、とてつもない数の生物が今の瞬間にも絶滅していることを知り、とてもショックを受けました。人間が日々の快適さを望む一方で、多くの地球環境問題を生み出し、そして自分の首を絞めているという現実に恐怖で震えました。石田先生によれば、地球は大丈夫で、ただただ人間の存続が危ぶまれている状態だと言います。私達はどのように今を生きていくべきなのでしょう。

石田先生は、もともと大手の住宅設備機器・建材ブランドの取締役や最高技術責任者を担ってこられて、今ある地球環境問題に対しては、そういった住宅設備機器をデザインし開発していくことでアプローチされています。知識量や技術力、経験値の豊富さはもちろんのこと、発想の柔軟さや当たり前に見える物事に対する批判的思考力が凄まじく、たとえば入浴には浴槽に300リットルの水と、20℃から40℃に温めるためのエネルギーが必要で、このままのペースだと2030年にはどちらも供給が不可能になるのだそうですが、この問題に対して、みなさんならどのような解決策を見出すでしょうか。「入浴時間を減らす」、「シャワーにする」、「身体を拭くだけにする」、「近くの川へ水浴びに行

く、「銭湯へ出かける」等が挙げられると思います。

このような現実的に実現可能なものが何かを分析し、未来の目標に近付けていく思考法を、石田先生はフォアキャストと呼んでおり、「温暖化対策に電気自動車の普及」「プラスチック問題にレジ袋の削減」などもフォアキャストによるアイデアなのですが、否定こそしないものの、本当に環境への負荷を小さくできているのかは疑問であり、限界があると明言しています。では、石田先生はどう考えるのでしょうか。石田先生はなんと、水の要らないお風呂を開発してしまいました。目からウロコ過ぎて、私は驚嘆の感情が滝のように溢れ出てくるのを止められません！

石田先生はバックキャストという思考法を用いて問題解決に当たります。バックキャストとは、将来の理想像から逆算して実現手段を考えていく思考法のことであり、たとえば上記のような入浴の問題であれば、「毎日我慢しないでお風呂に入る」ことが理想であり、そのために「水の要らないお風呂があったらいいのに…」を具体的に実現させてしまいました。何より、ドアをつければ車いすのままに入浴でき、水圧もかからないため体への負担も軽減されるそうです。さらに、水は不要なので軽量で済むらしく、どこへでも持って行けるということなのですが、これは絶対欲しいやつ！

石田先生は知識量や技術力が豊富なのでこのようなアイデアを実現させてしまったわけですが、私達も地球と人間の成長が両立していける心豊かな暮らし方を理想像とし、バックキャストによりアイデアを創造し、実現していくことが大切です。

ここでも、石田先生による心豊かな暮らし方についてのヒントを提示して頂いています。それは、人間にはちょっとした不自由さや不便さ

が必要であり、そのちょっとした不自由さと不便さを個やコミュニティの知識・知恵・技で埋めると達成感や充実感、愛着が形成され、幸せに感じられていくそうです。車から自転車に替えてみたり、家庭菜園やDIYをしたり、週末はアウトドアに出かけて電気が不要のアクティビティを試してみたり…ちょっとした不自由さや不便さも中々楽しそうですね。

コロナ禍では、70%の環境負荷で豊かに暮らせることが明らかになっているそうで、ちょっとした不自由さと不便さの繰り返しにより36%で暮らせる社会を描き、36%で暮らせる社会に求められるビジネスや政策が何かを明らかにし、現在から36%社会に向かうための、どのように進んだらいいのかのロードマップを描き上げていくことが、これからの課題であると伝えて頂きました。

石田先生は、自分事として地球との正しい関わり方を追及し実践される姿勢が素晴らしく、何よりその爽やかな佇まいが格好良く、直接お会いできたことを誇らしく感じました。私は保育者として、一人の大人として、誠実に地球と向き合い、子ども達のより良い模範となれるように、不自由さと不便さをみんなで乗り越え、そして心豊かに暮らしていければと思います。

